

東アジアの国々と渡来人

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

倭は朝鮮半島や中国とどう関わり、渡来人は何を伝えたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 朝鮮半島と東アジアの倭

東アジアとの関わり

くだら
百済

朝鮮半島南西部におこった国。倭と関係が深かった。

かや みまな
加耶(任那)

朝鮮半島南部の小さな国々の地域。倭と結び付きが強かった。

わ ごおう
倭の五王

5世紀に中国の南朝に使いを送った、倭の5人の王。

4世紀ごろの朝鮮半島には、北部にこうくり高句麗、南西部に百済、南東部にしらぎ新羅があり、南部には加耶(任那)と呼ばれる小さな国々の地域があった。ヤマト王権は、鉄などの資源を求めて、百済や加耶の国々と結び付きを強めた。

高句麗のこうたいおう好太王(広開土王)の業績を記した碑には、4世紀の終わってから5世紀の初めにかけて、倭の軍が朝鮮半島に渡って高句麗と戦ったことが記されている。また、中国の南朝の歴史書には、5世紀に倭の五王が使いを送り、倭の王としての地位を皇帝に認めてもらおうとしたことが記されている。五王の一人の武は、ワカタケル大王のことだと考えられている。

国	位置	倭との関わり
高句麗	朝鮮半島北部	倭の軍と戦った(好太王の碑)
百済	朝鮮半島南西部	関係が深く、のちに仏教を伝えた
新羅	朝鮮半島南東部	—
加耶(任那)	朝鮮半島南部の小さな国々	鉄などを求めて結び付いた

2 渡来人がもたらした文化

大陸の文化

とらいじん
渡来人

朝鮮半島や中国から日本に移り住んだ人々。

すえき
須恵器

渡来人が伝えた、高温で焼いたかたい土器。

かんじ
漢字

渡来人によって日本に伝えられた中国の文字。

このころ、朝鮮半島や中国から一族で日本に移り住む人々が増えた。この人々を渡来人という。渡来人は、高温で焼いたかたい土器である須恵器をつくる技術や、絹織物をつくる機織り、土木工事などの技術を伝えた。

また、渡来人は漢字や、孔子の教えであるじゅがく儒学も伝えた。漢字を使える渡来人は、ヤマト王権で記録をつくったり、外国への文書を書いたりする仕事についた。6世紀には、百済から正式に仏教が伝えられた。これらの文化は、のちの日本の社会や文化に大きな影響を与えた。

問いへの答え

ヤマト王権は、鉄などの資源を求めて百済や加耶と結び付きを強め、4世紀の終わりごろには朝鮮半島で高句麗と戦った。5世紀には倭の五王が中国の南朝に使いを送り、倭の王としての地位を認めてもらおうとした。また、朝鮮半島や中国から移り住んだ渡来人が、須恵器や機織りの技術、漢字や儒学を伝え、6世紀には百済から仏教も伝わった。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

